

# きよさと 組合だより



No.352



玉葱ポット作業 (10 営農集団 浅野智樹氏)

農業協同組合創立70周年 営農集団発足40周年記念事業	2
営農技術懇談会	3
青果物新規作付講習会	3
長いも生産組合栽培講習 冬期懇談会	3
ビットプラント	4
各組織等 総会報告	4
・JA清里町女性部総会	5
・清里町農協青年部総会	5
・馬鈴しょ採種組合連合会総会	5
・玉葱生産組合総会	6
・種子麦生産組合総会	6
・いちごつ子部会総会	6
・そば生産組合総会	6
・長いも生産組合総会	7
・シカ柵維持管理組合総会	7
・酪農ヘルパーさん紹介	7
・きよさと農業塾	8
・シストセンチュウ土壌検診	8
・フレッシュユミズ料理交流会	9
・食育教育活動	10
・きよるるカフェ	11
・くるるの杜・対面販売	11
・第29回JA北海道大会	11
・パネルディスカッション	12
・理事会の経過をお知らせ致します	14
・ご結婚おめでとう	14
・組合員状況	15
・退職にあたって	15
・私の食育日記	16
・ベジタブルライフ	16





農業協同組合創立70周年・営農集団発足40周年記念事業

# 70年の節目を契機に躍進への決意



開会宣言

12月16日、生涯学習総合センターにて清里町農協創立70周年と営農集団発足40周年の記念式典が、清里町町長及び関係機関を来賓としてお招きし、盛大に開催されました。

式典は三上専務の開会宣言により始まり、石井組合長並びに森田健一営農集団長連絡協議会会長より式辞がありました。石井組合長から、「上斜里村農業協同組合が創立され、清里町農業協同組合へと名称を変更し、営農集団の再編や農業政策の転換期を越えて今に至っている。情勢変化に対しても年計を樹立し、取り組んできた。また、グローバル化が進む中、FTA・EPA・TPP11といった各種協定は予断を許さない状況である。当農協においては組織整備の構築・基盤強化を進めていかねばならない。次世代へ向けて持続可能な清里町農業の確立が重要だと考えている。7周年式典を契機に、清里町農業協同組合のさらなる躍進に全力で傾注する決意である。」と述べられました。その後、長年にわたって当JAの発展に貢



永年勤続元役員への感謝状贈呈

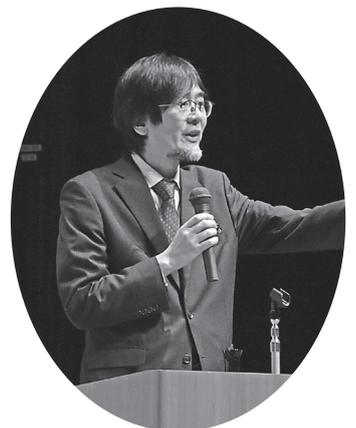
献して頂いた永年勤続元役員及び現役員、歴代営農集団長連絡協議会会長、永年勤続職員に感謝状の贈呈、営農集団長連絡協議会・青年部・女性部に活動助成の贈呈が行われました。

記念講演会では『亡国の農協改革』の書籍を書かれた経世論研究所所長の三橋貴明氏を講師にお招きし、「日本経済の真実と農業・食料安全保障の強化が日本に経済成長をもたらす」という演目で講演頂きました。メディアで取り上げられている情報の正しい捉え方や、政策の行く末と生活への影響に焦点を当てた力強いお話しに、会場はじつくりと聞き入っていました。

\*当JAが70周年を迎えられましたのも、ひとえに組合員・地域住民の皆様のおかげであります。今後も清里町農業の発展と地域活性化への寄与のため、地域に根ざしたJAとして役職員ともに尽力して参ります。



講演に耳を傾ける



三橋貴明氏による講演

## 営農技術懇談会

# 新年度に向けた技術情報と意見交換 組合員の74%が参加

2月14日、15日、21日の3日間  
にわたり、平成31年度営農技術懇  
談会が開催されました。JA農畜  
産課、ホクレン原料所、普及セン  
ターとの意見交換が行なわれ、今  
回も多くの組合員に参加してい  
たことができました。

農畜産課より、集団別の生産実  
績をはじめ、輪作体系改善、馬鈴  
しよの品種比較試験、粒剤効果確  
認試験、コナユタカ・コナヒメの  
安定多収栽培について説明されま  
した。ホクレン原料所からは、褐  
斑病・てん菜黄化病の防除説明や  
斜里郡3町生産性調査の結果報告  
がされ、普及センターからは、秋  
まき小麦高品質・多収栽培に向け  
た説明、高タンパク要因と対策、  
リモートセンシング技術の説明を  
していただきました。組合員から  
の質疑には、各種薬剤の散布や防  
除関係、新しい品種の開発状況・  
特性、農作業機械について等が挙  
がり、リモートセンシングの参考  
事例や生産履歴の表示、追肥調整  
試験の要望も挙がりました。その  
他、ごぼう・長いも関連や土質毎

の収量調査についての質問も挙が  
り、活発な意見交換の場となりま  
した。



春のとき付けに向け知識を高める

## 青果物新規作付講習会

# 新規作付に向けた窓口

1月25日、JA2階会議室にて  
初の試みとなる青果物新規作付講  
習会が開催、組合員11名が参加し  
ました。

講習会では各青果物組合の代表  
者を招き、スイートコーン(スイー  
トコーン生産組合副代表・柳谷克  
彦氏)や大根(加工大根生産組合  
代表・夏野佑介氏)、玉葱(玉葱  
生産組合代表・菅原健一氏)、ご  
ぼう(ごぼう生産組合代表・南出  
修氏)、長いも(長いも生産組合  
代表・塚田勉氏)の新規作付に向  
けた説明がなされ、参加した組合  
員は熱心に耳を傾けていました。

青果物別に作業体系、所得率等  
が説明され、生産者代表より作付  
の現状や過去の体験をもとにした  
助言がなされました。質疑には、  
資材・機材について、作付する土  
地・環境について、収穫作業の手  
間、JAでの支  
援体制といった  
ものが挙がしま  
した。終了後  
には個別で質問を  
伺う等、新規導  
入に前向きな方  
も見受けられま  
した。



## 長いも生産組合栽培講習 実例・調査結果から学ぶ

2月28日、長いも生産組合栽培  
講習会が開催されました。講師に  
は普及センター浦中氏をお招きし、  
2018年および過去の長いも栽  
培試験調査結果に基づいた報告や  
センチウ類の被害や発生抑制に  
向けた輪作体系についての説明が  
なされました。参加者からはマル  
子の効果や薬剤について等の質問  
がなされ、生産者同士の間でも実  
体験を踏まえた意見交換が活発に  
行われました。



実際のマルチ利用者からの意見も発言されました

## 冬季懇談会

# 組合員81.8%が参加

2月22日、25日、26日の3日間に渡り、平成31年度冬季懇談会が実施されました。懇談事項は「平



成30年度事業決算見通しおよび剰余金処分の考え方について』『平成31年度事業計画（案）について』『規約付属書監事監査規程の一部改正について』の他、『その他』においては、JA清里町「係会議」の集約化、種子馬鈴しょ（採種）の数量確保、小麦縮萎縮病にかかる対応、胆振東部地震停電時のでん原馬鈴薯腐敗原料に対する見舞金の支出、圃場立入禁止看板助成事業、業務機構図の一部改正（金融部の新設）、JAグループ北海道の「GAPをする」の取り組みについて提起し、ご意見をいただきました。各部門においても、事業に対する質問意見要望、また課題に対する方策や今後の展望といった点が発言され、活発な意見交換の場となりました。



## ビートプラント

# 7件共同、効率的な作業を実現

大和幸栄共同利用組合（第1営農集団・成戸巧氏、成戸道尚氏、第2営農集団・佐藤学氏、佐藤弘康氏、成戸稔氏、二俣清史氏、五味定信氏）では、ビートポットの土詰め・種入れ作業が「プラント」で行われており、約6日間の稼動で7件分のポットを行っています。プラントでの作業は人の動作をできるだけ少なくし、半自動でスピーディに行われています。そこからトラックで各家のハウスに運び込まれますが、運び込んだ先で苗を降ろす作業も機材を用いて効率的に行われ、複数人で苗を運び並べていきます。組合はこのような共同体制をとって37年以上になり、トラックからポットを降ろす機材等、改良を重ねて現在の作業体制に至っているとの事です。



# 各組織等 総会報告

## JA清里町女性部総会



菅原部長挨拶

2月19日、第44回女性部通常総会が清里町生涯学習総合センターにて開催されました。女性部員152名が出席し、菅原部長より「昨年度は部員の親睦や知識向上を図る活動や、地域との関わりを持つボランティア活動を行った。アカシヤ部会は少人数ながら積極的に活動し、フレッシュミセス部は柔軟な発想で生き生きと活動している。女性部が、それぞれの枠を超えた交流の一部を担えたかと思う。これからも縦と横の繋がりを深めていくことが女性部の明るい未来につながると思っています。」と挨拶がありました。その後、議案第1号「平成30年度事業報告並

アカシヤ部長	フレッシュミセス	監事	文化体育部	営農生活部	書記	副部長	部長
桑名	岩崎	吉田	伊藤	佐藤	成戸	岡本	前中
早苗(第8集団)	美和(第4集団)	静子(第8集団)	尚美(第3集団)	薫(第10集団)	清己(第2集団)	由加里(第4集団)	房枝(第8集団)
		智子(第5集団)	弥生(第6集団)	和美(第9集団)		谷澤	富士枝(第7集団)

### ★平成31年度 JA清里町女性部役員

びに収支決算について」議案第2号「平成31年度事業計画(案)並びに収支予算(案)について」他の提案がなされました。質疑では、フレッシュミセス活動に対して、こもり支援や予定されている活動での担当集団について挙がりました。また、その他においては、女性部創立50年や女性部研修会でのアンケート結果報告がなされ、総会は終了しました。



出席者による綱領唱和

## 清里町農協青年部総会



新役員決定

2月27日、第57回清里町農協青年部定期総会がJA清里町2階会議室にて開催され、青年部員53名が出席、榎村綾一部長からは「今日の総会は皆さんに1年の活動を知らせる場であり、失敗や良かった点を言い合える会だと思っています。来年度に向けて、青年部がさらに活躍できるよう意見をお願いします。」との挨拶がありました。議案第1号「平成30年度事業報告及び監査報告、収支決算報

### ★平成31年度 清里町農協青年部役員

部長	副部長(農政)	副部長(農業)	書記	代表理事	理事	監事
辺見 裕介(第8集団)	五味 信哉(第2集団)	森田 有哉(第1集団)	菊池 拓哉(第8集団)	田村 淑弥(第7集団)	輿水 優作(第9集団)	安原 翼(第9集団)

告について」議案第2号「役員改選について」議案第3号「平成31年度事業計画(案)並びに収支予算(案)について」議案第4号「平成31年度部費の徴収方法について」提案されました。質疑には、緑肥試験の結果に関するものや学習会開催について、本部研修、開催行事の予算といった、次年度に向けた話題も多く取り上げられました。事務局からは、31年度より上斜里支部と上斜里南支部が合併になったことが報告され、総会は終了しました。

## ★馬鈴しよ採種組合連合会総会

1月28日、JAの階会議室にて第47回馬鈴しよ採種組合連合会総会が開催されました。冒頭、渥美組合長からは「平成30年度は春先から雨が多い年であった。種子馬鈴しよについてはある程度の確保ができたものの、防疫検査では不合格原因にはソストセンチュウに関するものがある。近隣や町内においてもソストは増加傾向、種子馬鈴しよの生産を取り巻く環境は厳しくなっている。」との話がなされました。

議案審議では、議案第1号「平成30年度事業報告並びに収支決算報告、監査報告について」議案第2号「平成31年度事業計画（案）並びに収支予算（案）について」議案第3号「役員改選について」が提案されました。質疑では、組合員数減少に伴う組合の編成について質問されました。

### ◆平成31年度役員

組合長 中西 敬幸 ・ 副組合長 成戸 巧



## ★玉葱生産組合総会

1月30日、第35回清里町玉葱生産組合定期総会がJA清里町2階会議室にて開催されました。組合員14名（委任状2名）が参加し、菅原健一組合長から「昨年は玉葱生産者の懐が暖かくなる年となった。高値での単価推移となり、生産者の努力が報われたものと思う。」との挨拶の後、大町敏隆氏を議長に議案審議に入りました。

議案第1号「平成30年度経過報告及び収支決算報告並びに会計監査報告」議案第2号「平成31年度事業計画（案）並びに収支予算（案）について」議案第3号「役員改選について」事務局より提案されました。質疑には、工場の故障や視察研修の参加について質問が出されました。議案第4号「その他」については、産地パワーアップ事業に関する検討事項等の報告がされました。他、質疑等なく、総会は終了しました。

### ◆平成31年度役員

組合長 大藤 満広 ・ 副組合長 浮須 伸尚



## ★種子麦生産組合総会

2月18日、清里町種子麦生産組合第9回総会が、JA清里町2階会議室にて開催されました。

中平副組合長の開会宣言の後、議案審議に入り、議案第1号「平成30年度事業報告及び収支決算報告について」議案第2号「平成31年度事業計画（案）及び収支予算（案）について」が提案されました。議案第2号では、組合員より創立10周年行事や原種確保について質問がされました。また、議案第3号「その他」にて、事務局より種子小麦余剰分に係る考え方が提案され、基準となる数値についての質問や条件設定に関する質問が挙がり、事務局で再度整理・提案することとなりました。

### ◆平成31年度役員

組合長 伊藤 洋喜 ・ 副組合長 中平 哲也

## ★いちごっ子部会総会

2月8日、いちごっ子部会第21回通常総会が、JA清里町会議室にて開催されました。

菊池部会長が議長となつて議案審議に入り、議案第1号「平成30年度経過報告及び収支決算報告について並びに監査報告」議案第2号「役員改選について」議案第3号「平成31年度事業計画（案）並びに収支予算（案）について」事務局より提案されました。質疑なく全ての議題が承認され、総会は終了しました。

### ◆平成31年度役員

会長 福田 制子 ・ 副会長・会計 辺見 洋子  
監事 菊池 淳子

## ★そば生産組合総会

2月26日、第30回清里町そば生産組合定期総会が開催されました。

総会には組合員11名（委任状1名）が参加、議案第1号「平成30年度経過報告及び収支決算報告並びに会計監査報告について」議案第2号「平成31年度事業計画（案）及び収支予算（案）について」議案第3号「役員改選」について事務局より提案されました。質疑には、耕作予定者や資材（紙袋）に関する質問が挙がりました。その他、質疑等無く総会は終了しました。

### ◆平成31年度役員

組合長 株大町ファーム ・ 副組合長 石井 卓也

## ★長いも生産組合総会

2月20日、長いも生産組合の総会が開催されました。17名が出席し、塚田組合長からは「昨年は春の播きつけが順調に進んだ。しかし、その後の天候不順で萌芽不良と言える状況が続き、8月からの天候回復で挽回したい思いがあったものの、昨年を下回る結果となり残念な思いをした。今年は最良の出来秋になるよう進めていきたい。」との挨拶がなされ、議案審議に入りました。

議案第1号『平成30年度事業報告並びに収支決算報告について』議案第2号『平成31年度事業計画案並びに収支予算案について』議案第3号『役員改選について』が提案されました。議案第4号『その他』において種子選果の状況が報告され、他質疑等無く総会は終了しました。

### ◆平成31年度役員

・組合長 塚田 勉 ・副組合長 市橋 敦史



## ★シ力柵維持管理組合総会

2月28日、第18回シ力柵維持管理組合定期総会が開催されました。

高田組合長からは「組合員で補修・修繕を進め、シ力柵の維持管理に努めた。前年は3月の融雪被害で土壌の流出、シ力柵においても大きな工事を必要とした。他も老朽化により補修箇所は多くなってきた。鹿による食害も深刻になる中、新たな設置も課題となってきた」と挨拶されました。

議案審議では、議案第1号『平成30年度 事業報告並びに収支決算報告及び会計監査報告について』議案第2号『平成31年度事業計画(案)並びに収支予算(案)について』議案第3号『組合年会費及び賦課金の承認について』が提案され、議案第4号『その他』において、シ力柵間口の拡張についての説明がなされた他、組合員からは道営事業等の活用についての意見が挙がりました。



### ◆平成31年度役員

・組合長 高田 雅士 ・副組合長 岡本 和朗

## 酪農ヘルパーさん紹介

平成30年9月より清里町酪農ヘルパー利用組合にて働いていただいている磯 有貴子さんをご紹介します。

出身地 栃木県大田原市  
生年月日 平成7年12月20日  
今後に向けて ようやく仕事にも慣れてきて、一通りの流れができるようになりました。まだまだ



写真左側：磯 有貴子さん 前中房枝さんと一緒に

つつかものですが、生産者さんにもっともっと頼ってもらえるよう、一生懸命がんばります。よろしくお願ひします。

### ■ヘルパー利用組合前中組合長より一言

「若いながらバイタリティにあふれており、大変な仕事ですが頑張ってくれています。即戦力で活躍してもらって大変助かっているところ。半年が経ち、仕事で任せられている部分も多く、酪農家の組合員も喜んでいきます。今後も期待しています。」



●きよさと農業塾

## 塾生5名 肥料・農薬の基礎知識学ぶ

2時間  
の講義は  
とても内  
容の濃い  
もので、  
今後の営  
農に活か  
せる知識  
を学ぶこ  
とができ  
た有意義  
なものとな  
りました。



2月21日、きよさと農業塾の肥料農薬学習会が開かれました。ホクレン北見支所生産資材課とホクレン肥料株式会社を講師にお招きし、農業塾7期生5名が参加しました。講師からは、肥料の流通及び肥料原料情勢、肥料の基礎（各成分の働きや欠乏症、肥料の成分表示の見方等）を説明していただきました。また、化成肥料・BB肥料については、原料、化成肥料とBB肥料の違い、銘柄名の掘り下げた説明がなされました。

塾生からは、化成肥料は3要素が均等になるのは分かるがBBは均等になるのか、畑に散布した後  
の化成とBBの違いはあるのかといった質問がなされました。

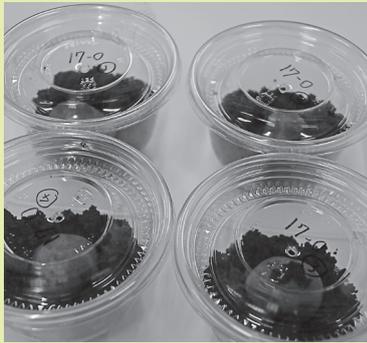
### ◆シストセンチュウ土壌検診◆ 手軽な検診方法を学習



手順2



手順3



手順4



給水

#### 【検診手順】

1. 診断を行いたい圃場から土壌を採取する。
2. 採取した土壌を底の深い透明のプラスチックカップに計量スプーン2杯ほど入れ、種芋の芽を下にして植える。
3. 種芋の周りに計量スプーン3杯分の土壌を加える。  
※圃場が変わるごとに計量スプーンを取り替え、他の圃場のサンプル結果に影響が出ないように注意する。
4. 土壌が乾いている場合には給水を行ってから、カップに圃場番号を記入した蓋をする。
5. できるだけ暖かい場所で8週間培養する。（途中2～3週間に一度給水を行い、発根後には根だけの伸長を促すため、光を当てないように培養する。）
6. 培養後、土に張った根をカップ越しに観察し、シストが形成されているかを確認する。



土壌内にシストセンチュウがいるかを診断するプラスチックカップ検診の研修会が、1月9日と11日に実施されました。

研修会には8名の組合員が参加し、センチュウの感受性がある品種の種芋と、あらかじめ参加者に採集してきてもらった圃場の土を使って、1圃場につき4つのサンプルを作りました。約8週間後には結果の確認を行い、センチュウ密度を調査することとなります。

フレッシュミズ料理交流会

わいわい楽しく♪料理もおいしく♪



とろとろのチーズをたっぷり絡めて味わう“チーズタッカルビ”

各班おしゃべりを楽しみ、今回も笑い声のあふれる交流会となりました。

12月20日、清里町生涯学習総合センターにてJA清里町女性部フレッシュミズ部の料理交流会が実施されました。  
今回は5班に分かれて『チーズタッカルビ』『ナムル』『チーススティック』『中華スープ』『かぼちゃのムースケーキ』を作りました。部員は2018年流行したチースタッカルビをはじめとする韓国料理に舌鼓を打ちながら、まるで漫画のように伸びるチーススティックを楽しんで食べていました。



最後はおいしく「いただきます！」

# 食育教育活動

「給食会」で地場産食材を実感



長芋入り豚汁うどん

もくもくと、うどんを食べる子供達

12月21日、光岳小学校にてJA清里町三上専務、長芋生産組合塚田組合長、清里町岸本教育委員長を交え、食育教育活動として給食会が実施されました。

現在、町内の給食には玉ねぎやごぼう、JA清里町より支援を行なっている町内産小麦の麺類（うどん・ラーメン等）、長芋生産組合より提供されている長芋といった清里産の食材が使われております。昨年は給食支援に際して贈呈式を実施しましたが、子ども達に



子どもと生産者が会話する貴重な機会になりました



梶原栄養教諭による説明

も清里産の食材が給食で使われていることを意識してもらったため、今回の給食会の実施に至りました。給食会では、普段の給食から清里町の食材が使われていることや、清里産長芋・清里うどんを使った特別メニュー「長芋入り豚汁うどん」について給食センターの梶原栄養教諭より説明されました。また、JA清里町からは食材の特徴について実物を使って紹介し、子ども達に自分達が口にかけているものを意識してもらうきっかけづくりとしました。途中、子ども達に長芋を見せたところ「大根」と言われる場面もあり、今後益々地場産食材への理解を深めていって欲しいと感じるところでありました。説明後には、参加した関連機関と子ども達が談笑の起こる中、和気藹々と一緒に給食を食べ、給食会は終了しました。



紹介した青果物を家で作っているという子もいました



食事風景

# きよ～るカフェ

目で楽しい・おなかにうれしい新メニュー



あつあつのなべ焼きうどん

きよさと情報交流施設きよ～るにあるレストラン「きよ～るカフェ」で、現在期間限定販売の『鍋焼うどん』が【食べ得】メニューです！

12月17日より新メニューとして登場した鍋焼うどんは、JA清里町の清里鍋焼うどんの麺をベースに、大きなかき揚げやお麩といったたくさんのトッピングが入っているのが特徴です。価格は700円（税込）と大変リーズナブル、麺もたっぷりポリリユーミーなため、食べ終わった後は大満足感間違いなし！是非一度ご賞味ください。

\*Aコープ清里店、道の駅パパス売店で販売している  
 「清里鍋焼うどん」(1900円/食)もよろしくお願ひします。



情報交流施設きよ～る

所在地/清里町羽衣62番地  
 営業日/年中無休(年末年始を除く)  
 営業時間/夏:午前10時～午後5時  
 冬:午前10時30分～午後4時  
 TEL/0152-25-4111



売店の商品もよろしくお願ひします♪

## くるるの杜・対面販売 清里の特産品を広める活動

2月23日と24日の2日間にわたり、ホクレンくるるの杜・冬のイベント『雪まつり』に合わせ、清里切麦と長いもの対面試食販売を清里切麦の製麺を委託している(株)ツムラの津村社長に同行していただいで実施しました。

清里切麦は生うどん・なべ焼きうどん・カレーうどん・清里やきそば・バーベキュー味/ガリックバター味を販売し、やきそばの試食を実施、長いもの対面試食も行ないました。

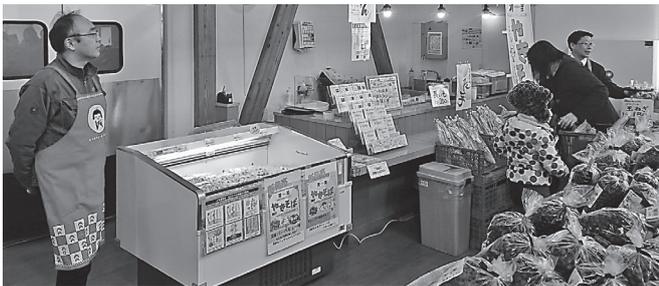
今回はくるるの杜雪まつり開催期間に実施ということで、子連れのお客様が多くいらつしやいました。やきそばの試食は子どもたちにも人気があり、親御さんも試食を食べて「麺がもちもち」と言っていたとき、清里の小麦だけを使っているという説明を聞いて「安心



やきそばを食べてご機嫌♪

ですね」と購入される方が多くいらっしゃいました。また、長いもの対面販売でも、試食をされたお客様に「甘い」「粘りがしっかりしてる」とうれしいお声掛けをいただきました。また、長いもの試食に来て、「おいしい！」と笑顔で食べてくれました。

毎年くるるの杜での対面販売を行ってきておりますが、着々と販売促進活動の成果が見えてきたところかと思えます。今後北海道清里町とJA清里町の知名度向上に繋げる活動を進めて参ります。



おいしくって  
 思わずにんまり

# 第29回 J A北海道大会～パネルディスカッション～

第29回 J A北海道大会（平成30年11月13日）

～パネルディスカッション～

テーマ「多様化する組合員ニーズに応える  
新たな協同組合の価値創造」

J A北海道大会当日に開催したパネルディスカッションの内容を2回に分けてご紹介します。



宮入 隆氏

北海道大学 教授

テーマは、議案第2号に係る協同組合の価値づくりです。難しいテーマ

ですが、前回大会と2回の実践フォーラムを通じて、各地で様々な取り組みを開始していると思います。これまでを総括し、新たなステップに繋げるための段階として、J Aの持つ多様な役割を再確認する場とさせて頂きたい。

あわせて、今後の実践のヒントをパネリストの皆さんから頂き、持ち帰ってもらえればありがたい。



行友 弥氏

(株)農林中金総合研究所 顧問 特任研究員

元々は新聞社で農林水産業の取材に携わり、今は東日本大震災、特に福島原発事故で被災した地域の取材に行っています。取材を通じ、協同組合の意義について考えさせられる機会も度々あります。



青竹 豊氏

(一社)日本協同組合連携機構 (JCA) 常務理事

JCAは4月に立ち上がりました。J A、生協、森林組合、漁協など様々な協同組合の連携を広げるために設立。私は4月まで日本生協連におりました。協同組合の連携を、より強めることについて、知っている範囲で事例報告をさせて頂きたい。



小野寺 俊幸氏

J A北海道中央会副会長 J Aところ 会長理事

全道J Aの代表であり、一生産者として、組合員のニーズにどう応えているか。最も難しい問題も難しい問題について、考えていきたい。パネリストの皆さんの話の中で、一つでもヒントを得たいと思います。

## 【事例報告】

- ①生協における組合員との関係強化
- ②持続可能な開発目標 (SDGs) と協同組合間連携

**宮入教授** まず、「組合員との関係強化」について、報告事例も踏まえて討論します。生協と農協の共通の課題も多くあると思います。多様な組合員ニーズへの対応として、組合員の自主性を保ちながら、新たな参加の形をどうしていくか。組合員の想いをくみ取り、新たな活動に変え、組合員参加の多様な形を実現させるという示唆に富む報告でした。

**行友顧問** 事例報告のキーワードは「元氣」「楽

しく」「多様」「地域に」でしょう。生協の活動をそういう方向に高めていくことが大切だと感じました。地域が抱える課題は人口減少・少子高齢化などを背景に複雑化・多様化しています。協同組合も規模が大きくなると、サービスを一方的に供給することになりがちですが、組合員自らの参加で課題を解決する流れを作ることが大事です。J Aは農政の実務を担ってきた歴史もあり、組合員が受け身になりやすく、自ら能動的に組合運動に参加する意識が薄れているのかも知れません。生協も同様の問題を苦勞して乗り越えようと思えます。

**宮入教授** 受動から能動へ切り替える難しさ。想いをくみ取って、参加スタイルを多様にする。

生協も実現までにご苦勞があったと思います。

**青竹常務** 各生協で、参加をどのように広げていくか、大きな悩みを抱えながら、日々格闘している。J Aの方が、農業者にとつてなくてはならない存在であり、先輩だと思います。お互いに交流しながら、時代にあった参加の仕方を磨いていきたいです。

**宮入教授** J Aも生協も、組合員活動をどう支援するかが基本。組合員の多様化の中で、今までと違い、世代間のギャップなどが課題にあれば伺いたい。

**小野寺副会長** J Aも70年の歴史を経た中、若い人たちに、どうやってJ Aに結集してもらうか。農協運動の中で組合員が何を求めているか。若い人たちと農協運営者の目線、考えのギャップが大きく出てきており、そこに農協運動の難しさがあります。

地震で被災したJ Aの施設に、若い人が結集して、被災したコンテナや馬鈴薯などを、自分

たちの力で片づけ、1週間かかる作業が2日間で終わった。

若い人たちが農協に結集すると、すごい力となって働く。若い担い手の力の素晴らしさ。普段は、口にしなくても、何かあればJAに結集して、仲間や友を助ける自分のJAという想いに感銘を受けた。

**宮入教授** 組合員との関係強化というと、いつもは自然に存在しているが、何かあったときにJAに入っていて良かった、組合員で良かったと感じることも大きいのでは。福島の取材でのお話などあれば。

**行友顧問** 住民が長期間避難した地域では農業が空白状態になりましたが、飯舘村などでは最初にお年寄りが戻り、最近若者が移住して就農するケースも出てきています。

そういう地域は人の繋がりが濃密で支えあいの土壌があります。社会関係資本（人間関係）が豊かな地域は、災害からの回復力が強いのではないのでしょうか。協同組合は、それを体現する組織であり、大事だと思えます。

**宮入教授** 『組合員との関係強化』について、組合員の自主性をどう協同活動に活かすか。JAでも、組合員の想いを、上手く活かして事業にしていけることが、ニーズの多様化の中で求められると思う。

生活スタイルも世代も異なる人たちが、JAに参加している。そういう声をどう聞き取るか具体的な方法として、アンケートもあるが、声をどう聞き取って形にするか。生協の事例について、もう一度、お聞かせいただきたい。

**青竹常務** 生協の職員にとっては、生活や子育てへの組合員の想いを聞き取る力が大変重要です。

宅配担当職員は、週に1度、組合員と顔を合わせ、いろんな質問や悩みを聞く、生協をやめると言われる場合もありますが、その背景を聞き取ることが大事。また、近畿の生協では、職員研修で、JAにお願いをして、一定の期間、畑や牛舎・鶏舎など、生産現場を体験させてもらっています。

本日の大会議案で、若いJA職員に組合員の会議への参加を位置づけています。現場・組合員の所に行くことが重要であり、その中で、聞き取る力や相手の想いを受け入れる力が育ちます。このことが、人と人が作る協同組合の大きな特徴だと思えます。

**宮入教授** 聞き取った内容を情報交換する場所はあるのでしょうか。

**青竹常務** すぐに対応できるものは対応し、重要な商品クレームなどは、組織対応に引き上げることもあります。

クレームやお問い合わせ・要望を登録し、組織全体あるいは役員会・理事会で状況をつかむためのデータベース作りを進めている生協も増えています。

**宮入教授** 担当者も変わる中、データベースにクレーム等も含めて、声を溜めることが、新たな取り組みに繋がるといってお話。なるほどと思います。

多様な組合員ニーズという意味で、北海道の組合員数の80%に及ぶ准組合員との関係づくりをどうするか。准組合員との関係づくりについて教えて頂きたい。

**小野寺副会長** 前回大会で、550万人サポーターづくりを掲げ、准組合員をはじめ、消費者の皆さんと、食と農で繋がることを目指して活

動をしています。

農業者もある意味で消費者だと考えますと、多様な消費者があり、生協からも、色々と学んでいかなければなりませんし、これからは、生協を含めて色々な方々と手を結び、横の連携を広くして、農業だけの目線で見るのではなく、多様な人たちの意見を農協が取り入れられるかに尽きると思います。

北海道の世帯数の60%以上が、生協に加入しています。生協における組合活動の素晴らしさを、我々も認識し、組合員との関係強化に向けて、目線を移していかないといけないと考えています。

**宮入教授** 准組合員調査を通じて、准組合員はJA事業利用に対して正組合員に近い考え方を持っていると感じています。自ら准組合員になっっている方々の声を、聞き取っていくことも大事だと思えます。

**行友顧問** JA横浜では、准組合員向けの農業体験講座が発展して正組合員の農業を手伝う援農ボランティアの取り組みとなり、正組合員と准組合員との関係を作る契機にもなっています。

北海道は、准組合員の割合が高く、農協がないと地域が持たない部分もあると聞きます。地域の様々な課題に対応するうえで、正と准の垣根を低くして、協力しあう関係作りが必要だと思えます。

**宮入教授** JA事業でライフライン・インフラを維持している地域が数多く存在するのも事実で、あつてはならないが、准組合員の利用が規制されると、JA事業も影響を受けます。正と准の支え合いを、目に見える形で作っていく必要があると思えます。

# 理事会の経過を お知らせ致します



## 第13回

12月17日

### 付議事項

- 議案第1号 平成30年度期中値引き(奨励)の実施について
- 議案第2号 平成30年産でん粉加工料の決定について
- 議案第3号 平成30年度給与改定について
- 議案第4号 従業員に対する12月期賞与の支給について
- 議案第5号 理事に対する供給限度額の変更について
- 議案第6号 平成31年度土地評価基準の設定について
- 議案第7号 平成31年度営農計画樹立に係る作物別単価の設定について

### 協議事項

1. JA清里町「係会議」の集約化について
2. 平成31年度事業運営方針(案)について

## 第14回

12月28日

### 付議事項

- 議案第1号 役員報酬審議会委員の委嘱者について
- 議案第2号 職制規程(業務機構図)の一部改正について

## 第15回

1月26日

### 付議事項

- 議案第1号 組合員の資格変更並びに出資の減口について
  - 議案第2号 固定資産(宅地)の処分について
  - 議案第3号 職制規程(業務分掌表、職務権限表)の一部改正について
  - 議案第4号 共済規程の一部変更について
  - 議案第5号 平成31年度内部監査方針および監査計画について
1. JA清里町「係会議」の集約化について

## 第1回

2月14日～15日

### 付議事項

- 議案第1号 平成31年度固定資産取得に向けての仮発注について
- 議案第2号 信用供与の最高限度の決定について
- 議案第3号 貸付金利率の最高限度の決定について
- 議案第4号 余裕金の運用方針および運用方法について
- 議案第5号 余裕金の預け先の決定について
- 議案第6号 平成31年度事業計画(案)について
- 議案第7号 平成31年度員外利用料率(単価)の設定について
- 議案第8号 規約付属書監事監査規程の一部改正について
- 議案第9号 冬季懇談会の実施について

2. 平成31年度役員報酬の諮問について

## 第2回

3月5日

### 付議事項

- 議案第1号 清里町農業振興計画策定委員の推薦について
- 議案第2号 JA冬季懇談会の意見集約について

- 見集約について
- 議案第3号 税効果積立金の取り崩しについて
- 議案第4号 平成30年度事業報告、貸借対照表、損益計算書、剰余金処分案、付属明細書及び注記表の承認について
- 議案第5号 JAバンク基本方針の変更について
- 議案第6号 第71回通常総会の開催及び提出議案について
- 議案第7号 「JA北海道大会決議事項の着実な実践を通じた自己改革の取り組みに関する特別決議(案)」の採択の取り組みについて
- 議案第8号 平成31年度経営定期点検実施計画について
- 議案第9号 反社会的勢力等への対応に関する基本方針の一部改正について
- 議案第10号 マナー・ローンダリング等への対応に関する規程の制定について
- 議案第11号 反社会的勢力等への対応に関する規程の一部改正について
- 議案第12号 当組合における取引のリスク評価書およびリスク総括表の策定について



沢田 穂さん (第8営農集団)  
 稲川 さやかさん (小清水町)

五味 信哉さん (第2営農集団)  
 数原 菜緒子さん (清里町)

高野 龍馬さん (農協職員)  
 南出 佳枝さん (農協職員)



## 組合員状況

(平成31年3月1日現在)

■組合員数		(前回報告より)	
正組合員 (個人)	223名	(変動なし)	
〃 (法人)	12法人	(変動なし)	
准組合員 (個人)	1,315名	(変動なし)	
〃 (法人)	0法人	(変動なし)	
〃 (団体)	20団体	(変動なし)	
(合計)	1,570		

## 退職にあたって

高橋 俊一



早春の候、組合員の皆様におかれましては春耕期の準備等がいよいよ始まり、ご多忙な事と推察申し上げます。

さて、私事となりますが、この度2月28日をもって一身上の都合によりJA清里町を退職させていただきます。平成24年1月に中途採用として入組し、業務部燃料自動車課に配属され約7年間勤務させていただきました。在職中は農業機械整備の担当として組合員の皆様と春の繁忙期から収穫期とシーズンを通し共に過ごさせていただきましたこと、その間のたくさんのご理解とご協力で厚くお礼を申し上げます。また、公私共に指導やサポートをしてくださった上司や同僚の皆様を支えられて仕事に専念できましたことを、心より感謝しております。

最後になりますが、組合員の皆様、役職員の皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げ、退職の挨拶とさせていただきます。

7年間、大変お世話になりました。

## 砂糖の種類と使い分け

私の食育日記



幼児食の味付けは薄めを目指していますが、苦手な野菜は甘めに煮たり、お砂糖の味付けで苦味のあるものにもチャレンジしてみました、必要な時には子どもが大好きな甘さに頼りながら食事を作っています。

そこで、味に敏感な子どものためにも、砂糖は何種類かを使い分けています。上白糖、三温糖、黒砂糖、メープルシュガー、ざらめ、グラニュー糖。これらは全て砂糖ですが、甘味、味、溶け具合など、違いがあります。

お砂糖の原料は、サトウキビやテンサイです。砂糖は、原料の糖蜜を分離して、シヨ糖だけを結晶化し精製して作られる精製糖と、糖蜜とシヨ糖を分離せずに作る言蜜糖に分ける事ができます。私たちが一般的に砂糖と呼んでいる上白糖は精製糖で、しっとりとして溶けやすくできています。三温糖も上白糖とほぼ同じですが、最後に出た糖蜜を何度も加熱してカラメル化させ、またはカラメル色素を添加する事で茶色をしています。一般的にざらめと呼んでいる茶色く粒が大きい物は中ざら糖とい

食育インストラクター ●岡村麻純

う物で、グラニュー糖は粒が細かくさらさらしていて、溶けやすいのが特徴です。上白糖のシヨ糖の割合が97・8%に対して、この二つのざらめ糖は、99・9%とシヨ糖純度が高くなっています。一方、黒砂糖は糖蜜を分離せずに作る言蜜等で、シヨ糖の割合は80%、糖蜜が含まれるため独特の香りやこくがあります。メープルシュガーも力エデから作られる言蜜糖です。また、キビ砂糖、テンサイ糖など原料を特定してその特徴を生かして作られた砂糖も見かけられます。テンサイ糖はオリゴ糖を含むのが特徴です。

煮物には色味や香りのある黒糖を、お豆を煮るときはざらめで甘味を強調、クッキーを作るときはメープルシュガーを使うなど、砂糖の使い分けを楽しんでいます。



野菜ソムリエ上級プロ  
KAORUの

# ベジタブル ライフ

## ウド

～日本原産の春の山菜～

イラスト：小林裕美子

### ウドのプロフィール

【分類】ウコギ科タラノキ属

【原産地】日本

【おいしい時期(旬)】3～5月ころ

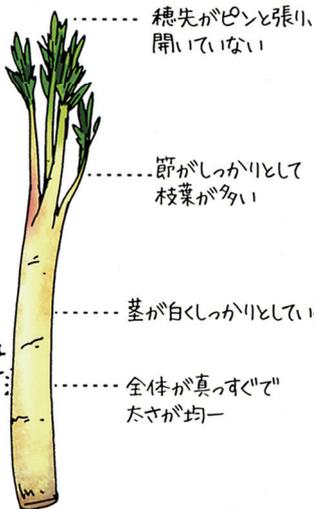
【主な栄養成分】

カリウム、クロロゲン酸、食物繊維

解説 KAORU

### 見分け方

産毛が全体に密に付いていて痛いくらい立っていれば新鮮よ!



### 保存方法

光に当てると硬くなる!

新聞紙に包み冷蔵庫の野菜室、または冷暗所で保存



カットした場合はラップで包み、必ず冷蔵庫へ

### ウドの子カラ

独特の苦味に薬効があるといわれ、古くから風邪のひき始め、冷え性、食欲不振などの緩和に良いとされてきた



カリウムが豊富  
高血圧予防やむくみの解消に

あくの成分は抗酸化作用があるポリフェノールの一種クロロゲン酸の老化予防やがん予防に

### ウドのいろいろ



#### 軟白ウド

江戸時代以来の伝統がある軟白栽培の温度管理された暗所で栽培されるため、茎が葉の近くまで白い通年出回る



#### 緑化ウド

山ウドと呼ばれることもありますが、天然の山ウドとは違い、軟白しないで育てられたもののほうが軟白ウドより短く30cm程度の葉が緑色、皮が厚く、香りと食感が強い

### 楽しみ方・食べ方のコツ

#### 下処理・調理のポイント



ほのかな苦味と甘味、特有の爽やかな香りが早春を感じさせるのシャキシャキとした食感を楽しむなら生で食べよう!

#### あく抜き

4～5cmほどの長さに切り、皮をむく

むいた後は酢水にさらす  
変色を防ぎ、見た目もきれいに仕上がるあくも取れる



あくは皮の近くに多い切り口の内側の円の部分まで厚めにむくと良い

切った直後からすぐにあくが出た変色するため、切る前に酢水を用意して、素早くさらすのがコツ

#### 火入れ

少量の酢を加えると  
真っ白に仕上がるよ



ゆでる場合は、熱湯でさっと歯触りを残す程度にゆでるゆでたらすぐにざるにあげてそのまま冷ます

#### 炒める

油との相性が良い!



炒め物には穂先などあくが強い部分がお薦めのあくが油で抑えられ、ほろ苦さや香りが生きる歯応えを残す程度に早く料理するのがポイント

#### 漬ける

漬ける際は生のままでではなく、ゆでておくことで味がなくすっきりとした風味に仕上がるよ



ピクルスなど漬けておくと1ヵ月ほど保存が可能なあく抜きをした後にさっとゆで、熱いうちに甘酢などで漬ける

#### 生でいただく

サラダやあえ物など生で食べる場合は、酢水にさらした後、ざるにあげて水気を切り、塩を少々振っておくと味と口当たりが優くなる



#### 部位による使い分け

香りやほろ苦さが際立つ部分のそのまま形や味おいを生かして

穂先



天ぷら・あえ物  
お吸い物

上の方ほど皮が薄くあくが強く苦味がある下の方はあくが少なく、淡白な甘味がある

茎



酢みそあえ  
炒め物  
煮物・汁物  
漬物・サラダ

ウド特有の風味が強い部分の厚くむいて活用する産毛の処理は不要

皮



きんぴら  
揚げ物

### ウドのヒミツ

#### 歴史

日本各地の山野に自生していて、江戸時代にはすでに現在と同様の軟白栽培が始まっていたといわれている

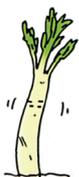
#### 生薬

漢方では根を乾燥させて用いた



#### 名前の由来

独活(うど)は、中国の古書にある「風なくして独りゆらぐ」から、独りの「独」と、ゆらぐの「活」を組み合わせたといわれている



#### ことわざ

「うどの大木」  
体ばかり大きくて、何の役に立たないことのウドはどんどん伸びて大きくなるが、実はもろくて折れやすいため成長し過ぎると食用にはならない。そこから「うどの大木」ということわざが生まれた

